

アダンサミット交流会計画

総合的な学習担当

1 ねらい

(1) 池間島の限られた資源において、人間活動と自然環境の共生がどのようにして持続してきたかを知り、その中でアダン文化について考える機会をもつ。

(2) 学習してきたことを振り返りながら調査・体験したことを整理し、研究してきた成果を発信していく力をつける。

2 日時 平成29年 8月5日(土) 13:00集合、 17:30解散

3 場所 きゅーぬふから舎

4 参加生徒 中学生全員(制服)、水田勝久、前泊優太(式服) 計13名

5 引率 中学校職員全員、上地洋平(5、6年担任)、宮川希望(総合担当)

6 学習内容(今後の主な流れ)

- (1) 地域との交流：聞き取り調査 (6月5日)
- (2) アダン葉採集 ① (6月10日)
- (3) アダン葉採集 ② (7月5日)
- (4) アダン葉実証実験(芋炊き実験 (7月12日)
- (5) 発表分担計画。 (7月18日)
- (6) 写真、動画まとめ。 (7月24日)
- (7) スライド作成。 (① 7月24日~26日、② 8月2日~4日)
- (8) 離島交流会参加：川-川 (7月27日 「きゅーぬふから舎」17:00集合)
- (9) 原稿印刷 (8月3日：NPO発表の資料の中に入れる)
- (10) 本番：「アダンサミット」での報告 (8月5日)

7 前日までの役割分担

(1) 生徒

- ① 発表者 …… (小) 勝久、優太 (中) 駿介、莉羅、賢工、愛音
- ② 動画編集 …… 和香菜、恋菜

(2) 教師

- ① NPOとの連絡調整 …… 尚代、正則
- ② 校歌の旗準備 …… 希望

8 当日の役割分担

- (1) 児童・生徒管理 …… (小) 洋平、希望、(中) 良典、真紀
- (2) 発表者引率 …… (小) 洋平、(中) 尚代
- (3) 写真撮影 …… 学校カメラ(由美子)、iPad動画撮影(希望)

9 支援スタッフ NPO法人

10 その他

安全に留意し、活動させる。

アダンバ実証実験計画

総合的な学習担当

1 ねらい

池間島の限られた資源において、人間活動と自然環境の共生がどのようにして持続してきたかを知る。

2 日時 平成 29 年 7 月 13 日（木） ⑤・⑥校時（総合的な学習の時間）

3 場所 池間小中学校（技術教室東側）

4 対象生徒 中学生全員

5 学習内容（今後の主な流れ）

- (1) アダンバを収穫に行く。（6月 28 日、⑤・⑥：総合的な学習の時間）
- (2) アダンバを薪として使う。（7 月 13 日）
- (3) イモを炊くのに必要なアダンバの量と、調理時間の実証実験を行う。（7 月 13 日）
- (4) ツガキの部分で「たこ」の燻製を作る。（7 月 13 日）
- (5) 実証実験結果を「アダンサミット」で報告する。（8 月 5 日）

6 当日の活動役割分担

(1) 生徒

- ① タイムキーパー …… 芦川 和香菜
- ② 記録係 …… 山里 莉羅

(2) 教師

- ① NPO との連絡調整 …… 前里 正則
- ② ワークシート作成 …… 前川 尚代
- ③ 用具確認 …… 前川 尚代

7 準備物

(1) 芋たき

芋・・・ NPO または正則先生（すぐに使えそうな物→簡単にすすぐ作業をさせる為）
くんせい用網・・・ NPO 法人

(2) 用具等（①・②共通）

大鍋 1、かま 1（1カ所）
さいばし 6、水（10 リットル）、ストップウォッチ 2、測り 1
※学校で用意・・・水、ストップウォッチ

8 支援スタッフ

NPO 法人、地域の方（芋炊き経験者_____さん）

9 その他

安全に留意し、活動させる。

アダン学校 2017 ～シマの暮らしとアダン～

【家庭科／中学校】

目的

かつて島の暮らしの中で重要視されてきた有用植物であるアダン。アダンは広く南西諸島の島々に分布し、島の生活においてさまざまな形で利用されてきた。池間島でも、葉（アダンプバ）、気根（アダナス）、実（アダンツ、ツガキ、バス）とほとんどすべての部位があますところなく使われてきた。アダンは、島の暮らしにおいて、最も使用された植物といっても過言ではない（南西諸島に限らず、環太平洋諸国の島々においても広くアダン（パンダナスと呼ばれる）の利用が見られる）。しかし現在、アダンを有用植物として利用した経験を持つのは、島の主に80～90代の年長者だけとなってきている。

授業では、このようにシマの生活になくってはならない存在だったアダンについて、どのように利用していたのか、なぜ必要だったのか、生徒たちが年長者たちから昔の話を聞き書きを行う。この聞いて得た情報を元に、アダンをうい自分たちの手で実験する。

この経験を通じて、島という限られた資源において、人間活動と自然環境の共生がどのようにして持続可能である（あった）のか、考察することが目的である。



アダンの下で集合写真（フツナ島 バヌアツ共和国 Kinoshita 2008）

南太平洋諸国の島々においても、アダンが最も重要な有用植物のひとつであることに変わりない。幹、葉、気根、実、すべてが暮らしの中で使われている。アダンの木は家屋の風よけとして配置されている。アダンがつくる木陰には人々が集う。村落の風景となっている。

学習プログラム案

回数	時数	内容	ねらい	担当
1	1コマ	<p>【生きる知恵と技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内にある限られた資源を使い、共同体が生きぬくために必要なものは？（例えば、燃料、食べ物、道具、など） ・南太平洋の島の暮らしにおける植物利用の事例を紹介し、池間島にはどのような資源があるか考えてみる。 ・先人の知恵や技術から学ばなくてはならないことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・池間島に生えている「アダン」の有用性に気付く ・アダンに興味を持ち、利用について調べてみたいと思う 	先生 NPO
2	2コマ	<p>【聞いてみよう！アダンのある暮らし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島のオジイやオバアたちに、アダンについて教えてもらう。 ・当時の暮らしの中でどのように使われていたのか、3～4グループに分かれて聞き取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然を利用してきた暮らしの知恵に興味を持つ ・聞き書き調査の実践 	先生 NPO 高齢者
3	2コマ	<p>【インタビューの振り返りと今後の計画づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループがインタビューした内容を共有する ・昔の写真を見ながら、聞いた話をより具体的にイメージする ・聞いた話をもとに、アダンの利用方法を整理して分類する（例えば、①薪として使う、②食べる、③道具をつくる材料として使う、④建材として使う、など） ・実証実験を行うテーマを絞り、それぞれの準備・記録担当を各グループで割り振りする 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き書きで得た情報を整理することができる ・実験の手順（計画）を組み立てることができる 	先生 NPO
4	2コマ	<p>【実験①～アダンバを集めてカミテ（頭のにせて）みよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島のオジイと一緒にアダンバの枯葉を集めに行く。 ・アダンバを集める作業にはどのくらいの 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を記録し、分析する。 	先生 NPO 高齢者

		時間がかかるのか、頭にのせて運ぶのはどのくらいの重さがあるのか、実体験を通じて検証してみる。		
5	2コマ	<p>【実験①～アダンバを薪として使ってみよう～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダンバを薪として使って、実際にイモを炊いてみる（総合センター中庭のかまどを使用） ・どのくらいの量のイモを炊くのに、どのくらいのアダンバが必要で、どのくらい時間がかかるのか、実証実験をしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を記録し、分析する。 	先生 NPO 高齢者
6	2コマ	<p>【実験②～アダンの実を食べてみよう～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島のオバアたちと一緒にアダンの実を収穫する ・アダンのツガキを味見してみる ・アダンのバスを使って料理してみる ・アダンのツガキをつかって燻製を作ってみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を記録し、分析する。 	先生 NPO 高齢者
7	2コマ	<p>【実験③～アダナスから繊維をとってみよう～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島のオジイと一緒にアダナスを採りに行く ・採ってきたアダナスの皮をむいて薄く裂き、天日に干して乾かす （アダナスでロープを作る体験はシマ学校にて実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を記録し、分析する。 	先生 NPO 高齢者
-	7/20 （土） 予定	<p>【シマ学校～アダナスを編もう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾かしておいたアダナスの繊維をさらに細かく裂いて、縄をなう練習をする ・生き生き教室の利用者のみなさんと一緒に作業を行う。 		NPO 生き生き教室 学童
8	2コマ	<p>【調べてみよう！～アダンの植生マップづくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の池間島には、アダンがどこに、どれくらい生えているのかを調べる。 ・ドローンで撮影した航空写真を使ってア 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生調査を行い、データを記録する。 ・調査結果を分析、考察する。 	先生 NPO

		<p>ダンが生えているところを色分けし、植生マップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダンが生えている場所とその理由を、歴史的背景を含めて紹介する。 		
9	2コマ	<p>【調べてみよう！～植物としてのアダン～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダンをよく観察してスケッチする。 ・体のつくりや特徴、繁殖の方法などを調べて記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島在来の海岸植物を観察し、データを記録する。 	
10	2～5コマ	<p>【まとめ～壁新聞をつくろう～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習（聞き取り、実験、調査など）を振り返り、結果を壁新聞にまとめる。 ・「薪として使う」「食べる」「道具の材用として使う」のグループごとにまとめて発表する。 	<p>調査したことを整理し、人に伝えるかたちにすることができる。</p>	先生

平成 29 年度 海の体験学習実施計画

総合的な学習 担当

1 ねらい

総合的な学習を進めていくにあたり・・・

【海と人の共生】を目指す・・・「地域」「環境」「自然」を意識した取組をしていく。

[海洋教育との関わり]

- (1) 池間島近海の魚の採集・観察を行い、魚の種類や海の様子などを知ることにより、ふるさとの良さを再発見させる。
- (2) 池間島に伝わる伝統的な漁法を体験することで、ふるさとの良さを誇りとし、心豊かに生きていこうとする態度を育てる。
- (3) 海や砂浜で保護者や地域の方々との活動を通して、ふるさとの良さを知り、池間島を愛する児童・生徒を育てる。

2 期日 平成 29 年 7 月 9 日 (日) 午後 8 時 3 0 分～午後 2 時 (予定)

3 場所 カギンミ (磯の生き物観察、体験、カンカン釣り、シーカヤック体験)

4 参加者 児童生徒全員及び保護者

5 主な学習内容

- (1) 小 1・2 …… 「磯の生き物観察」「シーカヤック」(生活科)
 - ① 磯の潮だまりや海岸を散策して、磯の生き物の観察をする。
 - ② シーカヤックを体験する。
- (2) 小 3・4 …… 「磯釣り」「シーカヤック」(総合的な学習の時間・理科)
 - ① 保護者や地域の人とカンカン釣り等、磯釣りを楽しむ。
 - ② シーカヤックを体験する。
- (3) 小 5・6 …… 「刺し網漁」(総合的な学習の時間・理科・社会等)
刺し網漁で網を引き、漁業の醍醐味を体験する。また、池間島の海岸の地形などについて教科で調べ学習を行う。
- (4) 中学生全生徒・・・ 池間島近海で釣り体験を行い、漁業の醍醐味を体験する。

6 支援スタッフ (これまでの例)

池間漁業協同組合、池間体育協会、シマおこしの会

7 持ち物

帽子、タオル、水筒、水着、着替え、体洗い用水、昼食用のおにぎり

8 安全に留意し、活動する。

海洋教育シンポジウム 最終報告 in Tokyo

1 ねらい

- (1) 体験活動や交流学习から学び得たことを他者へ伝え、自分自身の考えを広げる。
- (2) 「海と人とのかかわり」から地域と連携した取組を通して、自分自身がどう変容したかを振り返る。

2 テーマ 「海と人とのかかわり」

(地域との連携や生活環境の違う人々とのかかわりを通じた深い学びを発表)

3 期間 平成30年3月17日(土)～3月19日(月) 2泊3日

※ 17日: **10時 空港集合** 19日: **15時半 解散**

4 実施場所 東京大学本郷キャンパス

5 参加生徒 中学校全生徒 11名、小学校代表児童 3名 14名

6 引率教師 校長:屋嘉比 邦昭、教頭:濱川 泰成、前川 尚代、下地 智恵子 4名

7 交通手段

航空機【往路】 ANA1722 便 宮古発 11:00 → 那覇着 11:50

【乗り継ぎ】 ANA464 便 那覇発 12:15 → 羽田着 14:55

【復路】 ANA087 便 羽田発 11:40 → 宮古着 14:55

8 宿泊施設 **フォーレスト本郷 03-3813-4408**

〒113-0033 東京都文京区本郷6丁目16-4

9 緊急連絡先 **090-2390-9451** 前川 尚代(携帯)または 学校まで!

10 その他

- (1) 持ち物について ① 2泊3日分の着替え
※ 寒さ対策、常備薬、制服(女子:スカーフ等の確認)
- (2) 貴重品について ① 携帯電話・・・持参不可(写真等の記録は学校カメラで対応)
② 小遣い・・・飲み物用に使う程度(2,000円)
③ 保険証のコピーを学校へ提出

(3) 主な日程について 決定次第お知らせします。

(4) 池間中学校の生徒指導規則に従い、安全面に留意しながら行動をする。

海洋教育プログラム交流会 実施要項

池間中学校 総合的な学習担当

1 ねらい

- (1) 色々な考え方をもつ他社と適切に関わりながら協同的に学ぶことにより、学習の質を高めることにつなげる。
- (2) これまでの体験活動から得た知識等を他に発信(表現・発表)する力をつけ、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつなげる。
- (3) これまで学んできた「沖縄戦」の歴史から切り離すことのできない社会と歴史を再度見つめ直し、自分との関わりや見方、考え方を深めていく。

2 期間 平成 29 年 8 月 25 日(金)～8 月 27 日(日)

3 実施場所 沖縄本島南部、中部

4 参加生徒 中学校全生徒 11 名

5 引率教師 教頭:濱川 泰成、前里 正則、前川 尚代 3 名

6 交通手段

- (1) 航空機 【往路】 JTA552 便 宮古 08:55 発 → 那覇空港 09:40 着
(8 時集合)
【復路】 JTA565 便 那覇 15:10 発 → 宮古空港 16:00 着
- (2) バス 8 月 25 日(一日目) 東大附属中の生徒と共に、バスで移動
8 月 26 日(二日目)～27 日(日) 池間中のみ、バスで移動
(活動は東大附属中と行う)

7 宿泊先 国際ユースホテル奥武山

(098) 857 - 0073

8 主な行程 ※ 決定次第配布します

9 費用 海洋教育パ^oイ^oアスクール^oプログラム助成金で賄うため、自己負担はなし

10 その他 池間中学校の規則を守り、安全に注意しながら行動する。

平成29年度 親子オカガニ観察会 実施計画

総合的な学習担当

1 わらい

- (1)自然の豊かさやすばらしさに気づかせ、身の回りの環境や自然を大切にしていこうとする心情を育てる。
- (2)池間島に生息するオカガニの生態を知ることによって、生命の尊さや共生の必要性を実感し、小さな生き物に対するやさしさや思いやりの心を育てる。
- (3)オカガニの放卵する様子を観察することにより、野生生物に対する興味・関心を更に深める。

2 日時 平成29年 6月9日(金) 午後 7:00~8:30(予定)

3 場所 池間島一周道路(船越ビーチ)
※状況に応じて場所変更の可能性もあります。

4 参加対象者 全児童生徒(33名)
(低学年は、保護者の引率をお願い致します。)

5 引率 参加可能な職員

6 当日の日程

午後	7:00	現地集合 (人員確認, 諸注意)
	7:10	人員確認 (担任、その他職員)
	7:20	学習課題等についての確認
	7:30	観察開始 (静かに観察する) (メモをとりながら観察)
	8:20	観察終了(人員確認)
	8:30	解散

7 準備する物

懐中電灯(各自持参)

8 活動内容 (コーディネーターの指示に従いながら学習していく)

- (1)各学級や自分の課題(めあて)にそって観察する。
- (2)母ガニの放卵の様子を観察する。
- (3)オカガニの個体数を数える。
- (4)オス, メスの違いやどちらが多いか等を調べる。

9 講師(コーディネーター) 春川 京子さん (春川 優さん 母親)

10 事前学習 小中それぞれ1時間 (講師と連絡調整の上、決定)

11 留意事項

- (1)夜間の活動なので安全面に十分気をつける。
- (2)危険な場所への立ち入りを禁止する。
- (3)各学年単位で活動させ、一人で活動させない。

12 その他 安全に留意する

第 1 2 2 回 池間ヒャーリクズ実施要項

学校用
H29/5/15

1 ねらい

- ①島に伝わる伝統行事への参加を通して、地域の方とふれあうとともに、ふるさとに対する誇りと歴史をつなぐ喜びを感じる機会とする。（故郷愛）
- ②友達や先生方と協力し、行事を盛り上げたり、楽しんだりする心を育てる。
（友達愛）（学校愛）

2 日 時 平成29年 5月29日（月） 午前8：30～午後3：30頃

3 児童生徒職員の参加競技

競 技 名	小学生	中学生	職 員
くり舟競漕（男女混合チーム）		○	○
水中リレー（班別）	○（小3～）	○	
船上つなひき	○		
えさまき	○	○	
宝さがし	○		
すもう	○	○	有 志

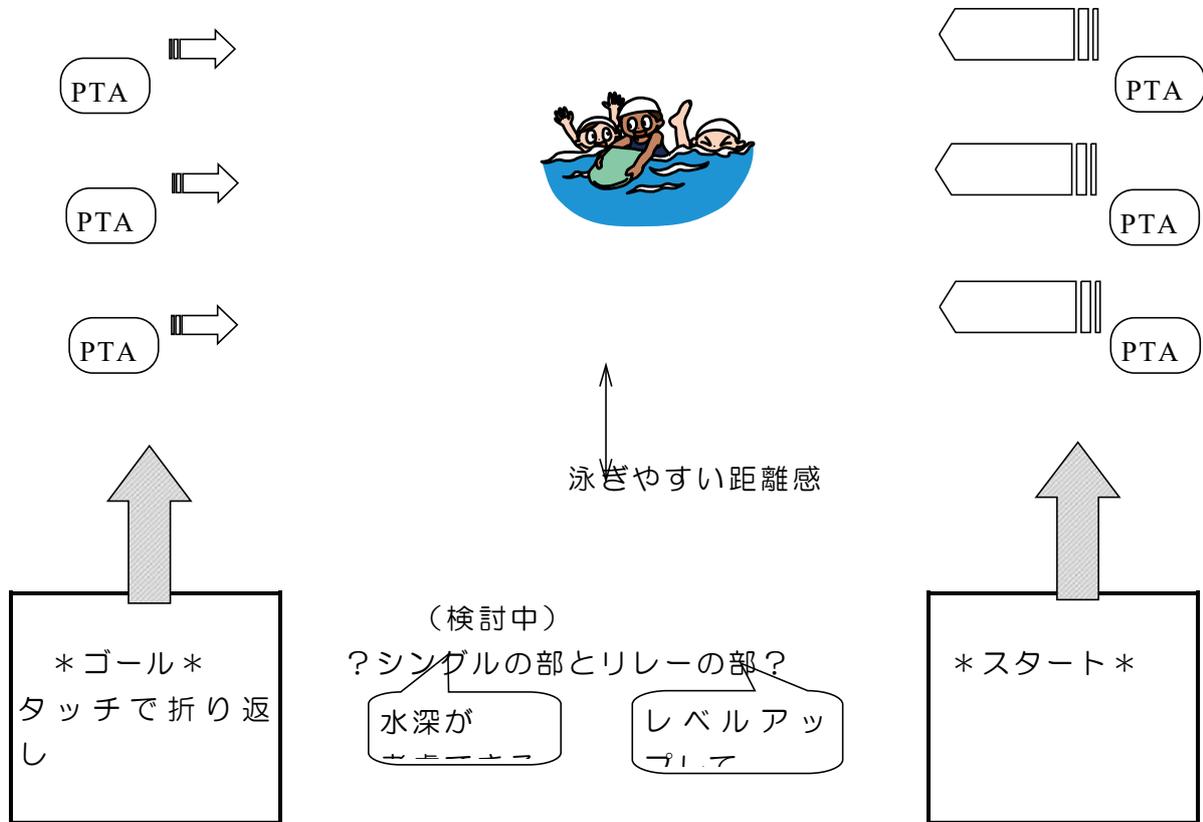
4 取り組みスケジュール

	具体的取り組み	準 備	練 習	備 考
前 日 ま で	<ul style="list-style-type: none"> ★取り組み内容確認 ★パワーポイントで周知 （行事の意義や歴史等） ○組み分け ※水中リレー※くり舟 ※すもう対戦 ★スタンバイ（小中）選手宣誓 ★すもうの練習（小3・4） ★くり舟競漕（中学生） ★水中リレーの練習 	<p style="text-align: center;">disk1→H29→行事</p> <p>組み分け表 （アナウンス用も）</p> <p>コース表示</p> <p>声入りCD</p> <p>軍配・まわし・塩</p>	<p>がんじゅうタイム</p> <p>体育</p> <p>26日放課後</p> <p>体育</p>	<p>総合学習等で事前指導。</p> <p>◎希望・尚代</p> <p>◎洋平・希望</p> <p>◎教頭</p> <p>◎正則・良典</p> <p>◎校長</p>
当 日 の 流	<p>8：15 ふから舎前集合</p> <p>8：30 パレードスタート ↓水浜まで ◎</p> <p>9：00 開会式 競技開始</p>	<p>全 員：パーランクー</p> <p>PTA 先導で島内をパレードする。放送機器。</p> <p>選手宣誓（3・4年生）スタンバイ（小中全）</p>		<p>◎小職員</p>

えさまきや宝探しの賞品は、カバンや袋に入れて
開けさせない。果物類は座って食べる。ジュース

れ	12:00 お昼ごはん ※パンヨーグルト配布 明美 13:30 相撲の部 15:00 解散	児童生徒：各自自宅で昼食。※お便りで確認 職員：学校に戻り、休憩&昼食 教頭 賞品→依頼あれば準備（ ） 担任は、安全を確認して現地解散。
事後指導	国語：作文や詩、短歌・俳句等 図美：絵や版画 総合： 学活：	※海洋教育への取り組みにもつながるよう 計画的に指導をしよう！

5 水中リレーコース図



6 児童生徒の持ち物・服装

学校指定の体育着・ぼうし・ぞうり OK・中から水着を着てくる。
水筒・タオル・着替え・防水加工のカバン・ビニール袋（1～2枚）

※学校でマリンシューズ準備